

セゾンマルチシリーズ 据付説明書

FDUMP 22HKXD4～36HKXD4

PJC012D110

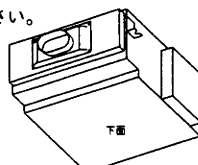
本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。

電気配線（室内）、リモコン取付方法は室内ユニット付属の説明書をご覧ください。

室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事

方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

リモコンは、別売りです。



据付時この面が下になります

適用機種

22H, 28H, 36H

お願い ○取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご指導ください。
○長期間使用しない時は、電源スイッチを切るようお客様にご指導ください。

工事完了後、これだけは再チェック願います。		
チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに繋がっていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に標示の範囲と同じですか。	運転不良・焼損	
銅配線、銅配管はありませんか。	運転不良・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不良・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

①据付の前に

○据付はこの説明書に従って正しく行なってください。

○工事計画にあてられていますか。

機種・電源仕様

確認してください

配管・配線・小物部品

付
属
品

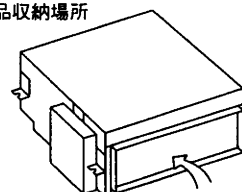
① ドレン配管用

1	パイプカバー	2個	ドレンセット用
2	ドレンホース	1個	
3	ホースクランプ	1個	ドレンホース用

② フレアナット部断熱用

1	パイプカバー	1個	ガス管用
2	パイプカバー	1個	液管用
3	バンド	4個	

付属品収納場所



付属品は吸込側のこの中に入っています

②室内ユニットの据付場所の選定

室内ユニット据付スペース

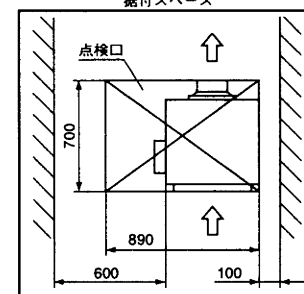
1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- 冷風または温風が十分行きわたる所。
- 据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
- ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
- 直射日光のあたらない所。
- 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

（本ユニットはJIS露点条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態では運転すると水滴が落下するおそれがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全ておよび配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。）

2. 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうかを検討し、危険と思われるら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

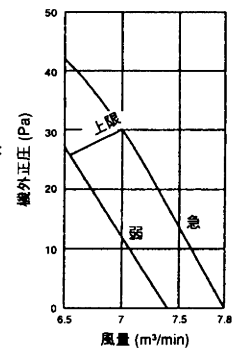
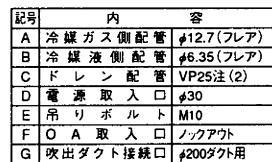
据付スペース



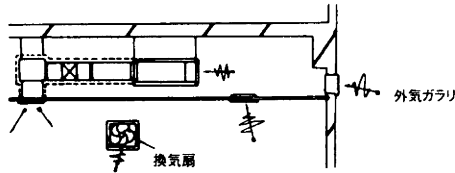
3吊り込み

●吊りボルトは、M10またはW3/8を4本使用し、1本あたり50kg/10の引き抜き荷重に耐えられるよう固定してください。

1. 吊りボルト長さは、下記寸法を厳守してください。
2. 所定の位置（576×528）に吊りボルト（現地手配）を設置してください。
3. 水準器を利用するか、透明ホースに水をいれたものを使用してユニット水平度を確認してください。水平度がでないとき水漏れ、フロートスイッチの誤動作の原因になります。
4. 上記確認後、ユニットを固定してください。



ダクト施工の悪い例



吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候(雨の日など)等により天井内が高湿度となるおそれがあります。

(イ)ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。

また、コンクリート建築などで新築の場合も、天井内ダクトにしろなくても湿度が高くなることがあります。この場合はユニット全体をグラスウールで保温してください。(金網などでグラスウールをおさえてください。)

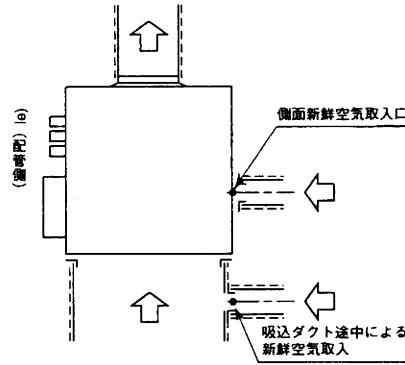
(ロ)ユニットの運転限界をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。

(ハ)換気扇の能力、外気ガラリに吹きつける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンに流れず、外部に流れ出すこともあり、天井にドレンが滴下して水もれの原因となります。

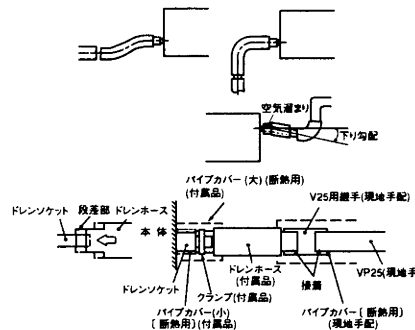
吹出側ダクトを使用しない場合、異常音・騒音増大の原因になることがあります。吸音のため吸音断熱付フレキシブルダクトの使用を推奨します。

④給気ダクトの接続

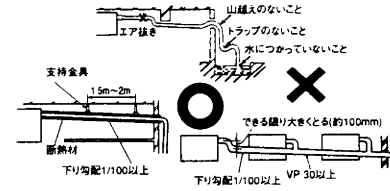
- ・新鮮空気取入は、側面新鮮空気取入口を使用するか、吸込ダクト途中に取り入れてください。
- ・ダクト接続は、別売品の給気用ダクトフランジ(φ125丸型ダクト接続用)を利用し、φ125丸型ダクトを接続してください。(バンド締め)
- ・ダクトは結露防止のため、保温してください。



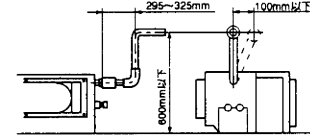
⑥ドレン配管



- 付属のドレンホースとVP25用継手の接着はユニット吊下げ前に実施してください。
- ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っばって使用された場合、破損し、水もれに至る場合があります。
- ドレン配管に空気が溜るため左図のような下り勾配を設けないでください。停止時の異常音発生の原因となります。
- 接着剤は付属ドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキシブルに力が加わった場合、破損する恐れがあります。
- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
- 付属のドレンホース(軟質塩ビ端)をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締めてください。<接着剤使用禁止>



ドレンヘッドを高くした時の注意事項を以下に示します。



その他工事要領は通常のドレン配管工事と同一とします。

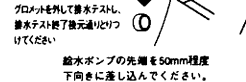
- すきまのないように巻いてください。(パイプカバーは形状に合わせて切断してください。)
- ・室内にある硬質塩ビパイプ
- ドレン配管の出口高さは、天井面より60cmまで高くさせることができますので、天井内に障害物等がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、左図の寸法内で処理願います。
- ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

排水テスト

(電気工事終了後に排水テストを実施してください。)

- 試験運転時に排水が確実にこなわれていることと、接続部からの水もれのないことを確認してください。
- 暖房期の据付の際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1. 配管貫通部カバーのグロメットを外し、給水ポンプなどを利用して約1000ccほど注入してください。
2. ドレン排水しているか排水口部(透明部分)で確認ください。
3. 排水テスト後は、ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。水抜き確認後はドレンプラグを元通りはめ込んでください。
4. 排水テスト後は、必ずグロメットを元通りはめ込んでください。
5. 排水テスト後は、ドレン配管の断熱を本体部まで完全に行ってください。



ドレンポンプ強制運転方法

ドレンポンプの運転がリモコン操作でも可能です。運転操作方法は、「電気配線工事説明書」の⑥ドレンポンプ運転操作をご覧ください。



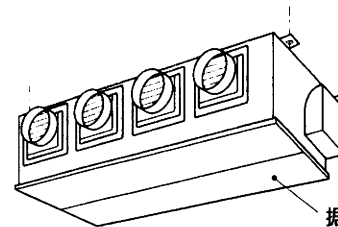
MEMO

セゾンマルチシリーズ 据付説明書

FDUMP 45HKXD4～140HKXD4

PJR012D022

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
リモコン及び電気工事の方法は、電気配線工事説明書（室内ユニット付属）をご覧ください。
総合工事仕様と室外ユニットの据付方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
リモコンは別売です。



据付時この面が下になります。

適用機種	小母形	中母形	大母形
	45, 56H	71, 90H	112, 140H

〈お願い事項〉 ○取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご指導ください。

○長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご指導ください。電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

①据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様

確認してください

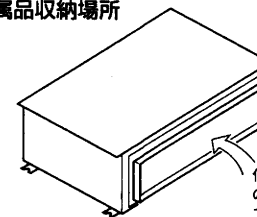
配管・配線・小物部品

付
属
品

付 属 品

1	パイプカバー		1個	ガス側用
2	パイプカバー		1個	液側用
3	バンド		4個	
4	ドレンホースクランプ		1個	
5	フレキホース		1個	ドレン用
6	パイプカバー		2個	ドレン用

付属品収納場所



付属品は吸込側のこの中に入っています。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

中静圧ダクト形 6-5/10

②据付場所の選定

この室内ユニットは屋外に設置することはできません。

お願い

1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- 冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3mを越えると暖気が天井にもりまうので、サーキュレーターの併設をお勧めください。
- 室外への配管、配線のしやすい所。
- ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
- 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
高湿度の所に据付けると本体の断熱等露付に対する配慮をしてください。本ユニットは、JIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態では運転すると、水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全ての配管、ドレン配管にさらに10mm～20mmの断熱材を取り付けてください。

2. 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われる場合は板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

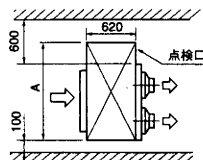
補助電気ヒータ（別売品）を組込む場合の規制（東京消防庁見解）

- 原則として天井裏部分のユニット開口部を設けることは禁止。
- 外気導入の場合は、金属ダクトにより直接屋外から取入れること。
（ダクトを接続せず、天井裏をダクトとすることは不可。）この場合、防火ダンパは不要。
- 「火を使用する設備等の技術水準」の第3温風暖房機の4項の設置要領が適用され、本体は可燃性の部分から周囲60cm、上方1m以上の距離を保つこと。
- 電気ヒータが有効に点検できる位置に、1辺が60cm以上の点検口を設置してください。

＜重要＞ 補助ヒータを組込むときは、パッケージエアコンを取付ける前に「火を使用する設備等の設置届」を作成し、所轄の消防署等に届出を行い、審査又は、検査を受けること。届出書は、上記の他に防火対象物の案内図、設置する際の平面図、立体図、構造図、室内仕様表、付属設備図などの図面が必要です。

（室内機）

据付スペース



機種	記号	A
45, 56H		1,100
71, 90H		1,300
112, 140H		1,720

③吊り込み

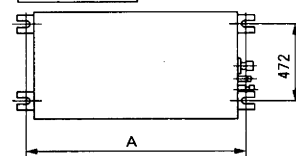
搬入

- 搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
- やむをえず解梱して搬入する場合はナイロンスリングまたは、ユニットを傷つけないよう当て板をしてロープで吊り上げてください。

据付

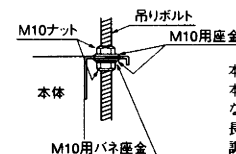
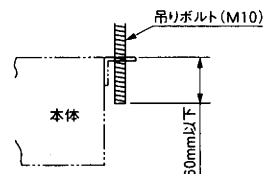
＜吊り込み＞ユニットを吊り込んでください。

吊りボルト位置



機種	記号	A
45, 56H		786
71, 90H		986
112, 140H		1,406

○吊りボルトの長さは下記寸法を厳守してください。

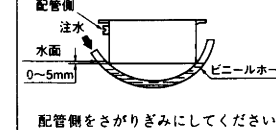


本体を据え付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。

水平度の調整

○水準器を使用するか、下記の変換で水平度の調整を行ってください。

●本体下面と水面高さが下図になるように調整してください。



○水平度がでないフロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

④冷媒配管

フレアナット締付トルク

- φ 6.35: 14～18(N・m), (1.4～1.8kg・m)
- φ 9.52: 34～42(N・m), (3.4～4.2kg・m)
- φ 12.7: 49～61(N・m), (4.9～6.1kg・m)
- φ 15.88: 68～82(N・m), (6.8～8.2kg・m)
- φ 19.05: 100～120(N・m), (10～12kg・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し水滴れします。

- ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）

- フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。

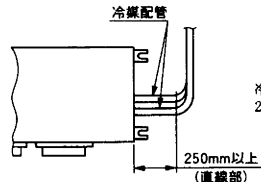
- 配管は下記材質のものをご使用ください。
なお別売配管セットを使用されると便利です。
（材質）リン酸銅無縫黒鋼管（C1220T、JIS H3300）

- 室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。

- 配管は、ねじったり、つぶしたりしないでください。

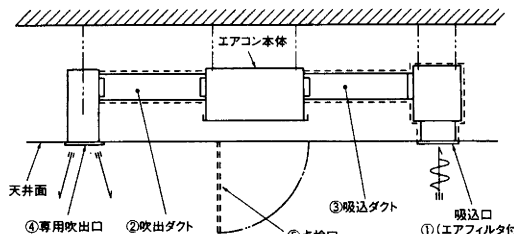
- 配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。

配管工事



冷媒配管工事は、左図のように直線部を250mm以上とって行ってください。
（ドレンポンプのサービスに必要です。）

⑤ダクト工事



お願い

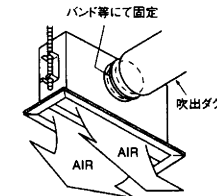
- エアコン本体には、エアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルに組込んでください。
- 吹出ダクト
●φ200円形ダクトにより、下表に示すスポット数で使用してください。

項目	機種	45, 56H	71, 90H	112, 140H
スポット数		2	3又は2	4又は3

- 各スポット間のダクトの長さの差は、2材1以内としてください。
- ダクトは、最短長さとなる様施工してください。
- 曲りは極力少なくしてください。
（曲げRは極力大きくしてください。）



- 本体・吹出口のダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行ってください。
- 露付防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクトの使用を推奨いたします。
（別売品1m、2m、4mがあります。）
- 天井張付前にダクト工事を実施してください。
吸込ダクトの保温は、必ず施工し、ダクトへの結露を防止してください。
- 専用吹出ダクトは室内全般に空気が流れるような所に据付けてください。



- ダクト接続は、φ200円形ダクト専用です。
- 専用吹出口の取付及びダクトとの接続は天井貼付前に行ってください。
- ダクト固定バンド部を断熱し結露防止を行ってください。
- 天井面に点検口を必ず設けてください。
電装品、モーター等のサービスのため必要です。

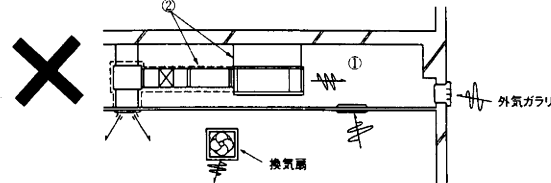
ご案内

4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用蓋板を別売品として用意しています。

（注：2スポットから1スポットへの改修は、行わないでください。）

⑥ ドレン配管

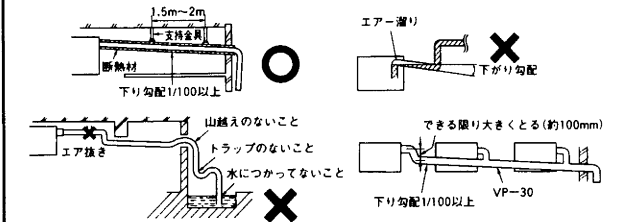
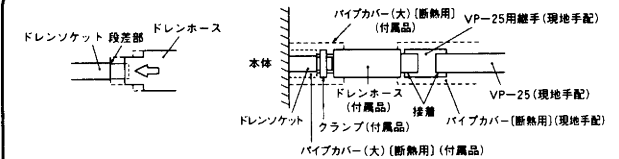
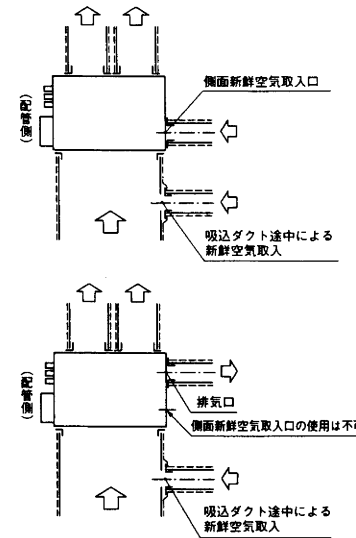
ダクト施行の悪い例



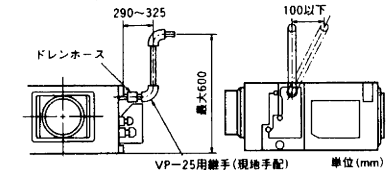
- ① 吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候（雨の日など）等により天井内が高湿度となります。
 - (イ) ユニットの外板に結露し天井に滴下する恐れがあります。コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしろとも湿度が高くなることがあります。この場合はユニット全体をグラスウール(25mm)で保温してください。（金あみなどでグラスウールをおさえてください。）
 - (ロ) ユニットの運転限界（例：外気35℃DBのとき吸込空気温度24℃WB）を超える場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
 - (ハ) 換気扇の能力、外気ガラリに吹付ける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限を超えてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンに流れず、外部に流れだすこともあり、(天井にドレンが滴下する) 水漏れの原因となります。
- ② ユニットとダクト、ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブにユニットの振動が伝わる場合があります。必ず防振してください。
- ③ 吹出側ダクトを使用しない場合、異常音・騒音増大の原因になることがあります。吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクトの使用を推奨いたします。

給・排気ダクトの接続

- ① 新鮮空気取入
 - ＜給気のみの場合＞
 - 側面新鮮空気取入口を使用するか、吸込ダクト途中に入らせてください。
 - ＜同時排給気の場合＞
 - 吸込ダクト途中に入らせてください。
- ② 排気
 - 側面排気口を使用してください。（必ず給気を併用してください。）
- ③ ダクト接続
 - 別売品の給排気用ダクトフランジ(φ125丸形ダクト接続用)を利用し、φ125丸形ダクトを接続してください。（バンド締め）
 - ダクトは、結露防止のため、保温してください。



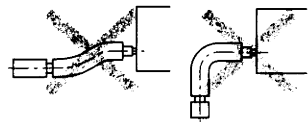
▶ ドレンヘッドを高くした時の注意事項を以下に示します。



その他工事要領は通常のドレン配管工事と同一とします。

お願い

- 付属のドレンホースとVP-25用継手の接着はユニット吊下前には実施してください。
- ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合、破損し、水漏れに至る場合があります。

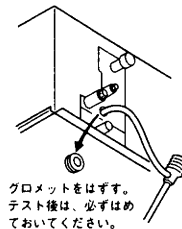


- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
- 付属のドレンホース(軟質塩ビ端)をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクランプで確実に締付けてください。
- 接着剤は付属ドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。乾燥後、フレキシブルに力がかかった場合フレキシブルが破損する恐れがあります。
- ドレン配管は下り勾配(1/50~1/100)とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。

- エア抜きは絶対に設けしないでください。
- ユニットから出たドレン配管を下り勾配としないうでください。エアが溜りユニット停止時の音の発生原因となります。
- 複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
- 結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2箇所は確実に断熱してください。
 - ・ドレンソケット部
 - 排水テスト実施後、パイプカバー(小:付属品)をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー(大:付属品)にてパイプカバー(小)、クランプ及びドレンホースの一部を覆い、テープによりきまのないように巻いてください。
 - ・室内にある硬質塩ビパイプ
- ドレン配管の出口高さは、天井面より60cmまで高くすることが出来ますので、天井内に障害物等がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、左図の寸法内で処理願います。
- ドレン配管の出口は異臭の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管は、イオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

排水テスト

- 試運転時に排水が確実に行われていることと、接続部からの水漏れのないことを確認してください。
- 吸房時の据付の際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。



クロメットをはずす。テスト後は、必ずはめておいてください。

注水ホースを20mm~30mm位差し込んで注水してください。（注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。）

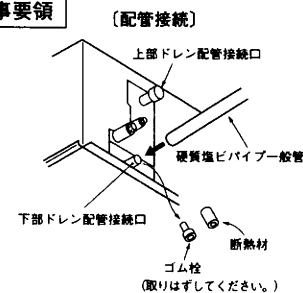
1. 本体吹出口より給水ポンプなどを使用して約1000ccほど注水してください。
2. ドレン排水しているか排出口部でご確認ください。
- ※ ドレン排水用電動機の回転音を確認しながら排水するかどうかをテストしてください。
3. 排水テスト後、下部ドレンプラグを外して水抜きを行ってください。水抜き確認後はドレンプラグを元通りにはめ込んでください。ドレン配管の断熱が本体部まで完全に付いているかを再確認してください。

ドレンポンプ強制運転方法

- ドレンポンプの運転がリモコン操作により可能です。
- 運転操作方は、電気配線工事説明書の⑥「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。

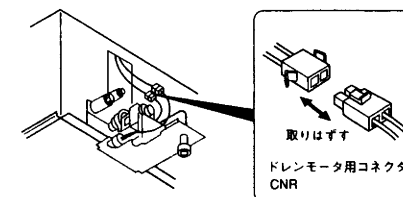
下部ドレン配管工事要領

ドレン配管に下り勾配(1/50~1/100)が可能な場合右図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



＜ドレンモータ用のコネクタの取りはずし＞

下図に示すようにドレンモータ用コネクタCNRを取りはずししてください。
(注：コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。)



MEMO

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線取り出し穴位置および電気配線接続

電源配線

警告

- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災の恐れがあります。
- 電源配線の仕様・サイズの選定は、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」、「内線規程」に従ってください。また、接続部の緩みがないようにしてください。
- 機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置すること。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないこと。併用した場合、ブレーカー落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。

注意

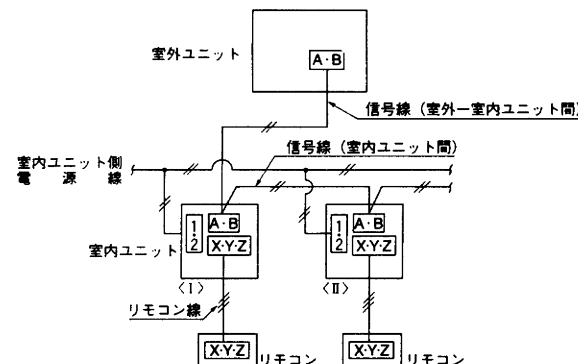
- 8mm²を超える太さの配線は接続不可能です。8mm²以上をご使用の場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐するようにしてください。
- 信号線用端子台に200Vを接続しないでください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。

○電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

- 1) 電線は銅線以外のものを使用しないでください。
- 2) 電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源。
- 3) 電気ヒータ（別売品）は含んでおりません。
注）電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
- 4) 各仕様値の計算は、組合せ可能最大ケースにて計算してあります。組合せ機種・台数等にて、値は若干異なりますが（低下傾向）微少のため、同値としてください。
- 5) 同一系統内の室内ユニット電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになる様にしてください。
- 6) 信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損してしまいますので、ご注意ください。

配線系統図

〔室外・室内ユニット接続要領〕



電源仕様

室内ユニット用			
配線用遮断器 定格電流 (A)		10A未満	20A
		10A以上15A未満	30A
		15A以上22A未満	40A
		22A以上27A未満	50A
漏電遮断器 定格電流 (A)	室内ユニット 合計電流 (A)	10A未満	20A, 30mA, 0.1sec以下
		10A以上15A未満	30A, 30mA, 0.1sec以下
		15A以上22A未満	40A, 30mA, 0.1sec以下
		22A以上27A未満	50A, 100mA, 0.1sec以下

配線仕様

電源配線		室内ユニット間電源配線	信号線	
室内側		系統間	室外～室内(1) 室内(1)～(2)～	
mm ² ×本数		mm ² ×本数	mm ² ×本数	
室内 ユニット 合計電流 (A)	10A未満	2.0×2本(こう長23m)	0.75 \ ×2本	0.75 \ ×2本
	10A以上15A未満	3.5×2本(こう長23m)		
	15A以上22A未満	5.0×2本(こう長23m)		
	22A以上27A未満	8.0×2本(こう長23m)		

注(1)配線こう長は、合計電流値の最大値で記載してあります。

(2)室内ユニット接続線は5.5mm²まで使用可能です。8.0mm²以上の配線をご使用なされる場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。

(3)配線こう長は、電圧降下を2%とした場合を示します。上表の配線こう長を超える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチ (224H, 280H, 560H) の場合

分流コントローラの配線

- 本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ(別売品)の据付説明書をご覧ください。

② アドレス設定

(1) 自動アドレス設定 (2) 手動アドレス設定 (3) リモコンアドレス設定

上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

なお、(3) リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線及び機能

リモコン リモコンは別売です。

リモコンの据付

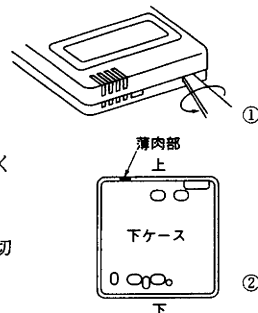
お願い 次の位置は避けてください。

- 1) 直射日光の当たる場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気の多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所

取付要領

露出取付

- ①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバー等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- ②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- ③リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。



- ④リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。

端子：①赤線、②白線、③黒線

リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。

各配線の皮むき長さは下記の通りです。

黒：195mm

白：205mm

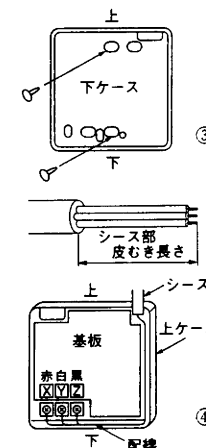
赤：215mm

- ⑤上ケースを元通りに取り付けてください。

- ⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。

- ⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

機能の設定の項をご覧ください。



リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。

- 全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C(京阪電線)〕

注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。

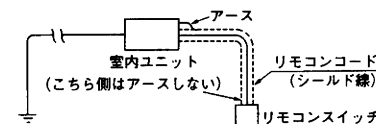
100～200m以内……0.5mm²×3心

300m以内……0.75mm²×3心

400m以内……1.25mm²×3心

600m以内……2.0mm²×3心

- シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



埋込取付

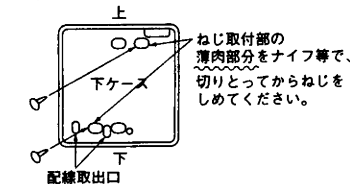
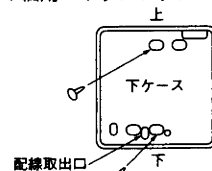
- ①JISボックスとリモコンコード(延長の場合はシールド線を必ず使用)をあらかじめ埋込んでおきます。

〔使用可能JISボックス〕

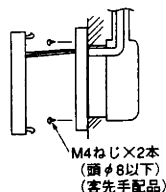
- JIS C 8336 1個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス

1個用スイッチボックスの場合

2個用スイッチボックスの場合

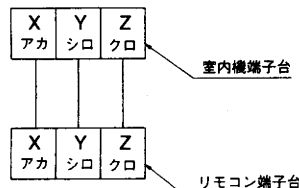


- ②リモコンの上ケースを外してください。
- ③下ケースをM4ねじ2本(頭φ8以下)を用意してJISボックスに取付けてください。
- ④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
- ⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
- ⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
機能の設定の項をご覧ください。



リモコンと室内の配線

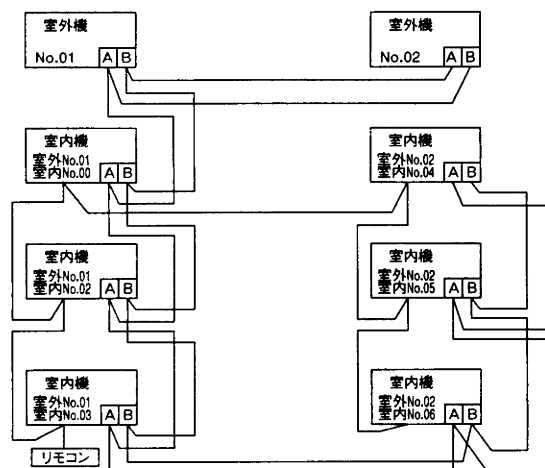
- リモコン配線は極性があります。必ず同一端子No.同士接続してください。



リモコン複数台制御

配線要領

- グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。(3本)
- 室内ユニットリモコン用端子台XYZに、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
- 配線は0.5mm²以上を使用してください。(配線の引通しに耐えるもの)
- 渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
- 室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
- 室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
- 下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
- 1つのリモートコントローラで複数台のユニット(最大16台)をグループ制御できます。
- 室内基板上のロータリースwitch SW1、SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように設定してください。



電源投入後、リモコンの「エアコンNo」を押すと室内機アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

機能の設定

設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

工場出荷時、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、ラクリーナパネルご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。

設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

本機の設定可能項目と工場出荷時の設定は下記の通りです。

(1) リモコン機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
01	グリル昇降設定	昇降無効 有効50Hz地区 有効60Hz地区	○
02	自動運転設定	自動運転有効 自動運転無効	○
03	温度設定	温度設定有効 温度設定禁止	○
04	運転切換	運転切換有効 運転切換禁止	○
05	運転/停止	運転/停止有効 運転/停止禁止	○
06	風量調整	風量調整有効 風量調整禁止	○
07	風向調整	風向調整有効 風向調整禁止	○
08	タイマー	タイマー有効 タイマー禁止	○
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効 リモコンセンサ有効	○
10	停電補償設定	停電補償無効 停電補償有効	○
11	換気設定	換気運転なし 換気運転 換気非運転	○
12	温度範囲設定	表示変更有 表示変更無	○
13	室内ファン速調	ファン3速 ファン2速 ファン1速	○
14	冷房/ヒートポンプ	ヒートポンプ 冷房	○
15	外部入力設定	個別運転 全台同一運転	○
16	エラー表示設定	エラー表示有 エラー表示無	○
17	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフリー停止	○

(2) 室内機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定
01	高天井設定	標準 高天井1 表示しない	○
03	フィルターサイン設定	180時間後 600時間後 1000時間後 1000時間→停止	○
04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフリー停止	○
05	外部入力切換	レベル入力 ハルス入力	○
06	運転許可/禁止	通常運転 有効	○
07	暖房室温補正	通常運転 室温補正+3℃	○
08	暖房ファン制御	弱風 停止→弱風	○
09	凍結防止温度	2.5℃ 1℃	○
10	凍結防止制御	ファン制御有効 ファン制御無効	○
11	電気集塵機	ファン制御無効 ファン制御有効	○
12	加湿器制御	ドレンモータ非運転 ドレンモータ運転	○

(1) リモコン機能の⑦ルーバ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能の④ルーバ制御設定も変更してください。

④ 制御の切換

囲みが工場出荷時の設定

室内機の制御内容を下記方法にて切換可能です。

SW5-1	OFF	遠方発停入力 (CnT) をレベル入力
	ON	遠方発停入力 (CnT) をパルス入力
SW5-2	OFF	—
	ON	暖房時設定温度+3℃
SW5-3	OFF	加湿器残留運転 無効
	ON	加湿器残留運転 有効
SW5-4	OFF	オートスイング 有効
	ON	オートスイング 無効
SW9-1	オートリフトパネルの昇降長さの設定	
SW9-2		
SW7-1	ON	—
	OFF	高天井制御 (ファン回転数アップ)
SW7-3 SW7-4	暖房サーモOFFファン制御の切換 0:OFF 1:ON	
	記号	設定1 設定2 設定3
	SW7-3	1 1 0
	SW7-4	1 0 1
	暖房サーモOFFファン制御	間欠運転 Lo運転 ファン停止

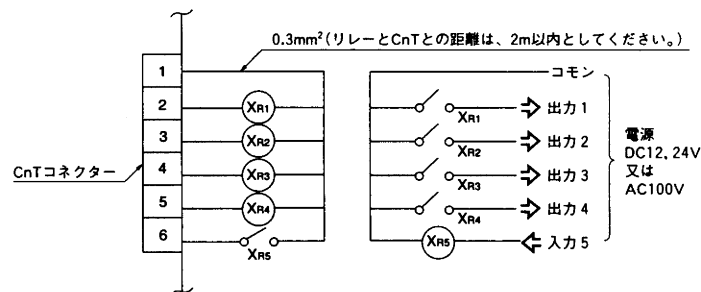
J5	短絡	—	
	開放	運転許可禁止	
J8	短絡	フィルタサイン有効	
	開放	フィルタサイン無効 (検知しない)	
J9	短絡	—	
	開放	オートスイング4位置制御無効 (フリー位置制御)	
J10 J11	リモコン風量表示の切換 0:開放 1:短絡		
	記号	設定1 設定2 設定3	
	J10	1 1 0	
	J11	1 0 1	
J12	短絡	—	
	開放	加湿器ドレン運動	

注) 機種によっては、上記制御内容の一部が無い機種もございます。

詳細は機種別の結線銘板をご覧ください。

注) 機種によっては、上記制御内容の一部が無い機種もございます。
詳細は機種別の結線銘板をご覧ください。

⑤ 室内基板CnTコネクタの機能



- Xr1~4はDC12Vリレー (オムロンLY2F相当品)
- Xr5は、DC12, 24V又はAC100Vリレー (オムロン製MY2F相当品)
- CnTコネクタ (現地側) メーカー、形式

コネクタ	モレックス	5264-06
端子	モレックス	5263T

●機能

出力 1	エアコン運転出力 (エアコンON時Xr1=ON)	
出力 2	暖房出力	
出力 3	サーモON出力 (サーモON時Xr3=ON)	
出力 4	エアコン点検出力 (エアコン点検時Xr4=ON)	
入力 5	出 荷 時	Xr5 OFF⇒ON エアコンON
		Xr5 ON⇒OFF エアコンOFF
	現地切換 (SW5のNo.1をON)	Xr5 OFF⇒ONのパルス信号によりON/OFF反転

- 冷暖フリーマルチとして使用の場合は分流コントローラ (別売品) の据付説明書をご覧ください。
- 遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑥ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。リモコンを次の手順で操作してください。

1. ドレンポンプ強制運転の開始

① [試運転] ボタンを3秒以上押します。

「項目◆で選択」→「[セット] で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。

② 「冷房試運転▼」の表示の時に、[▼] ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。

③ [セット] ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。

表示: 「ドレンポンプ運転」→「[セット] で停止」

2. ドレンポンプ運転の解除

④ [セット] ボタン又は、[運転/停止] ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
エアコンは停止状態となります。

⑦ 試 運 転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑨ 工事完了後のチェック項目

- ☐ 電源電圧は本体表示と同じですか。
- ☐ 室外機側でアース工事はされていますか。
- ☐ 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
- ☐ 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。